今号の「モント事件簿」は
「なぎさ痕跡捏造事件？の謎」（8面）


# MONTO

岩手県立大学
総合政策学部ニュース
Iwate Prefectural University
第7号2002.4.5

（MONTO WEB版）http://www-poly.iwate-pu.ac.jp/monto/

インターネットで公開中●タウンミーティングin岩手（2001年6月17日県立大学で開催）の動画ダイジェスト
●総合政策学部のPRビデオ


## 県立大学

# 一期生卒業
## 伝統への礎を築く

第一回目となる岩手県立大学の卒業式および大学院修士課程学位記授与式が三月二十一日、同大学講堂で行われた。総合政策学部卒業生九十八名、総合政策研究科修士課程修了生十一名がそれぞれ人生の新たなステップへと旅立った。

卒業式では、卒業証書が、西澤潤一学長から各学部の総代へ授与された。総合政策学部の総代を務めたのは石川淳子さん。「夢が現実になりました」と憧れの西澤学長から卒業証書を手渡された喜びを率直に語ってくれた。

式後、卒業生たちはそれぞれの思いを胸に、記念写真を撮ったり、近況を語り合ったり、大学構内は晴れやかな雰囲気に包まれた。

振り返れば、開学からの四年間、一期生たちは学業面のみならず学生生活の面においても常に開拓者であった。学生の自治組織である学生会の立ち上げや、体育系・文化系のサークル設立など、一期生たちが行動を起こさなければ何も始まらなかった。

開学二年目に九人ギリギリで結成した硬式野球部。キャッチャーだった中村淳一くんは「ハラハラの連続だった」と初陣で北東北野球連盟二部リーグへの昇格を決めた試合をしみじみと振り返った。四月からは仕事の合間に、この硬式野球部監督として後進の指導にあたる。

フィギュアスケート部をつくった門脇悠美子さん。表現力アップをねらって仲間とともにダンス部も設立。四年間の選手活動を振り返り「卒業論文のまとめの時期と大会とが重なったのがきつかった。就職後も大会へチャレンジする」と技の追求は続く。

大学祭やさんさ踊りも学生実行委員会の手で主体的に運営されるまでに育った。これらのイベントに積極的に参加してきた石川淳子さんは「開学当初は学生の一体感が薄く、もどかしさを感じることもあった」と感慨深げ。

「先輩もいない中でやってこれて自信になった。仲間たちの存在が大きかった」と松井重人くん。貫洞喜一くんも「友達に恵まれた。互いに刺激になった」と、学生同士の連携が一期生を支えてきたことを印象づけた。

「様々な価値観をもつ社会人たちとの出会いが貴重だった」と沢内村スノーバスターズにボランティアで参加した及川きみかさん。「父兄を通して地域を知ることができた」と小学生サッカーチームの指導に当たった茂木聡孝くん。学外の人たちとの出会いも一期生たちを大きく成長させた。

就職の面でも一期生たちは開拓者。「就職活動を重ねるうちに自分の方向性が固まってくる思いだった」。そして「これだっ！」。仙台のハローワークで運命の出会いを直感した鳴倉武志くんは、不安と戸惑いを抱えつつ臨んだ就職戦線をこう振り返った。「クマゲラなど野生生物との出会いは、新しい学部に寄せた入学当初の大きな期待を具体化させてくれた」という柳原千穂さんは大学院進学の道を選んだ。

細谷昂学部長は「新しい学部づくりに君たちといっしょに取り組んできました。これからも主体的に参加する気持ちや、広い視野で新鮮な発見を求める姿勢を大切にしてください」と述べ、就職後も開拓者であり続けてほしいとエールを送った。

夕刻から西澤潤一学長も参加して卒業記念パーティが盛岡市内のホテルで開かれた。企画はすべて卒業生。佐々木陽子さんは「学生生活の最後に何かビシッとキメたかった」とパーティ実行委員に名乗り出た心境を披露。同じく実行委員のひとり前田敏幸くんは卒業の感想を即座に「うれしい。くやしい」の二語で表現してくれた。何かやり残したとの思いが彼らをこのパーティの企画へ、そして、大成功だった手作りの雪上運動会（二月）へと駆り立てたようだ。そこには後輩たちへの熱いメッセージが込められていた。

四年前に植樹された大学構内の木々も、今ではしっかりと大地に根づいた。そして、ひとつひとつの芽のふくらみが私たちに春を告げていた。

## 増田寛也知事からのメッセージ
# 広い視野と実践力に期待

このたび皆さんが、めでたく岩手県立大学の記念すべき第一回卒業生として、歴史に残る輝かしい最初の一ページを飾ることが出来たことを、心からお祝い申し上げます。

私は、皆さんが本学に入学する際、「県立大学の開学は、新しい時代を創造する『ひとづくり』の第一歩であり、その新しい時代を創造する優秀な若者が本県、我が国はもとより、世界に羽ばたくことを強く願っている」と申しました。

今、この願いを実現するトップランナーとして、皆さんがそれぞれの分野で社会に羽ばたくことができることを、心からうれしく思っております。

皆さんが本学に入学してからこの四年の間に、社会は大きく変わってきております。私たちの周りには、様々な情報が溢れ、人々の価値観が多様化し、選択の可能性が大きく広がりました。その一方で、企業の倒産やリストラ圧力の強まりにより雇用環境が悪化するなど、皆さんを迎える今日の社会は、まさに「混沌」という言葉で表現できるかもしれません。

これから皆さんは、社会の荒波に揉まれながら、それぞれの道を突き進んでいくものと思いますが、こうした変革の時代であるからこそ、総合政策学部で幅広い学問を横断的に学び、広い視野と実践力を身につけた皆さん方に寄せられる社会の期待は極めて大きいものがあると思います。

皆さんがその期待をしっかりと受け止め、本学で学んだ実践的な知識を基礎としてさらに研鑽を積み、新しい時代に向けて、地球的広い視野で考え、地域社会で行動できる「地球市民」として、大いに活躍されることを心から期待しております。

## 西澤潤一学長からのメッセージ
# 世は諸君らの手を待っている

総合政策学部も晴れて第一期卒業生を世に送ることとなった。時あたかも、我らが祖国は疲れ切った体を横たえて、その回復はいつのことになるのか、はっきりしない状態にある。このような苦境の中に諸君を送り出すことは、我々先輩としては甚だ悲しいことである。

しかし、逆に言えば、世は正に諸君らの手を待っている。諸君らが直ちに、これに報いて世を一変させ祖国が立ち上がって力強く歩み出すとまでは考えられないが、もちろんそうなってくれることは大歓迎であることは言うまでもないが、相当の功績を挙げて、東北地方が、そして岩手がまず立ち直りの先頭を切って貰いたい。

大学を卒業した時、これからの自らの歩みを、他人に問くべき時は見逃さずに聞いて、自律してゆく能力を身につけたいということであるから、これから自らを励まし、自らを働かせて素晴らしい貢献をつづけ拡大してゆくことを心から期待している。

## 風媒花

### c o l u m n

政策学部の「学部づくり」に取り組んできた。その意味で、ともに苦労してきた「仲間」でもある▼当初、講義では私語ひとつせず、たいへんおとなしい学生たちのように思えた。しかし、この頁の記事にもあるように、勉学だけでなく、サークル活動、大学祭などの様々な活動を立ち上げた。また、先輩という「見本」がいないなかで、就職活動や卒業論文の執筆にも取り組んだ。一期生は、総合政策学部という新しい学部の、まさにパイオニアであった。自信と気概をもって、これからも社会で活躍してもらいたい▼卒業式のあと、「学位記伝達式」が行われた。そのなかで、細谷昂学部長は、次のことを一期生たちに語った。「みんなに守ってもらいたいことが二つある。ひとつは、総合政策学部の「総合性」をこれからも活かして、柔軟で豊かな発想でいてほしいということだ。そのためには、自分の意見を通すだけではなく、様々な立場の人の意見を聞いてほしい。もうひとつは、総合政策学部の特徴でもある「現場主義」を大切にしてもらいたいということだ。現場から自分で仕事をみつけてくる人間、人の嫌がる仕事を自らすすんでやる人間になってほしい」▼学部の理念のなかで掲げられている「問題発見・問題解決志向型」の人材とは、人々が何かおかしいと思いながらもうまく捉えることができない問題、あるいはいまだ認知されていない問題を、実際の現場のなかから概念化し、その実態を把握するとともに「現場主義」、多くの人々の意見に耳を傾けながら、様々な知識や方法を駆使・アレンジして「総合性」、人々との協力関係のなかで解決していく、そのような人材なのだ▼この四月から学部長が、細谷昂教授から古川浩一教授にバトンタッチされた。また、新カリキュラムも動き出した。そのなかでは、「総合政策入門」という科目も登場している。「問題発見・問題解決志向型」の人材を育成するための、さらなる挑戦が始まろうとしている。

一期生が社会に巣立っていった。四年前、開学したてでまだ学部運営の仕組みが整っていない頃から、一期生は私たち教員とともに、この総合

就職試験対策懇談会

# 就職試験対策のポイント教えます

## グレード・UP社（学生組織）主催により平成十四年一月二十八日（月）に開催

■体験報告者（五十音順、いずれも総合政策学部4年）
泉　有希子　　高山　くみ子
貫洞　喜一　　多田　恵
佐々木　麻美　　中村　淳一
佐藤　俊一

■司　会
佐藤　泰貴
（グレード・UP社社長、総合政策学部3年）

### 公務員試験

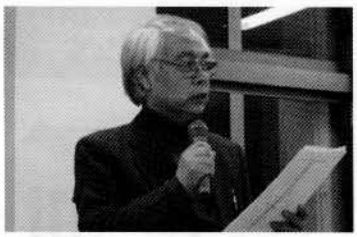
#### 試験勉強の開始時期

**司会**　公務員試験のための勉強を開始したのはいつ頃からですか。

**A**　勉強をはじめたのは三年生の一月くらいからで、教養科目は二年生にあがった頃から暇をみてやっていました。教養科目は民間にも使えるので、一年生や二年生の早い時期からやっておくことをお奨めします。

**B**　三年生の十月くらいからで、通信教育で「六カ月完成」というのをやりました。でも、後になって、時間が足りなくなってしまいました。

**C**　勉強をはじめたのは三年生の十一月頃からで、地方初級を受けるのであれば冬頃からでもいいと思いますが、県庁を受けるのであればもっと早くからやったほうがいいと思います。通信教育のテキストを繰り返し何回もやりました。



#### 試験勉強のスケジュール

**司会**　一日何時間くらい、どういう配分で勉強したのか教えてください。

**D**　本格的にはじめたのは四月頃からで、一日四、五時間くらいでした。通信教育を受ける場合には、一社だけだと絶対に不十分なところが出てくるので、最低でも二社は必要だと思います。それでも足りないところは、問題集を買ってやっていけばいいと思います。過去問は絶対やっておいたほうがいいと思います。

**C**　最初は一日三、四時間くらいで、最後は八時間くらいやりました。高校で理系科目をとっていなかった人は、時間があるうちにやっておいたほうがいいと思います。

**A**　私は、春休みや夏休みにまとめてやっておいて、授業の合間に少しずつ繰り返してやっていきました。一日これくらいの量をやるというスケジュールを立て、こなしていくやり方をしていました。大切なのは、繰り返し繰り返し完璧にやっていくことだと思います。

#### 模擬試験

**司会**　模擬試験は何回くらい受けましたか。

**B**　五、六回受けました。試験の全体の流れ、時間配分とかがあるので、模擬試験は受けたほうがいいと思います。

**C**　月一回の模擬試験があって、六回やりました。実際の試験より難しくできているので、それで力をつけていきました。

**D**　模擬試験は一回も受けませんでした。三年分の過去問をやって傾向をつかみながら、実際に試験を何回も受けて試験慣れしました。

#### 試験勉強の手順

**司会**　教養科目からはじめ、次に専門科目を勉強するというような手順はあるのでしょうか。

**B**　市町村を本命にするのであれば教養科目に力を入れるべきだし、県庁を受けるのであればやはり専門科目をまずできるようにしたほうがいいと思います。

**C**　教養試験だけだったので、数的推理、判断推理、文章理解など量的に多く出るものをはじめのほうに毎日やりました。あとは、得意科目からやっていきました。

**D**　国家Ⅱ種や県庁の場合、経済学がたくさん出ます。経済学を集中的にやって、あとは憲法や民法を。県庁の場合、新聞を見ていないと解けないような問題も出るので、気をつけたほうがいいと思います。

#### 試験科目の内容と解法

**司会**　次の五点について答えてください。第一に、教養科目の具体的な内容。第二に、それぞれの試験で何問出題されて何時間かけて解くのか。第三に、参考書や専門書とその活用の仕方。第四に、捨て科目についてお話してください。

**D**　国家Ⅱ種の場合、教養試験は高校で習った科目そのものですが、各科目一問か二問しか出ないので、捨てる科目が必要です。専門試験は、経済学、民法、憲法、行政法、行政学、政治学、社会学、英語など十三科目九十一問のうちから六科目四十二問を選択できるので、捨て科目を作ることができます。時間は二時間です。合格するためには、五十五％から六十％くらいほしい。小論文は、一時間で正味千六百字書かなければならないので、時間的にはかなり短く感じられます。面接で聞かれたのは、「大学ではどんなことをしたのか」とか「志望動機はどうか」でした。面接カードをわたされ、それにそって質問されるので、別に無理して考えていかなくても大丈夫です。テキストは、過去問にそって書いてあって、内容が全範囲にわたっているものを使ったほうがいいと思います。

**B**　県庁の試験科目ですけど、一次試験、二次試験がありまして、一次試験には教養試験と専門試験と小論文、二次試験には面接と集団討論がありました。教養試験の科目は高校で勉強した内容のもので、それに判断推理と数的推理などがプラスされます。教養試験は政経の比重が高いので、政経をよく勉強したほうがいいと思います。試験時間は百五十分で五十問、全問答える形です。高校で勉強していない科目は早めに捨てて、得意科目を確実に勉強することをお奨めします。専門試験は五十問中四十問選択する形で、時間は百二十分でした。試験の内容は、政治学、行政学、社会政策、経済政策、憲法、民法、行政法、刑法、労働法などです。社会政策には時事問題が出されましたので、新聞は読んだほうがいいと思います。小論文は九十分で千二百字書く試験でした。二次試験ですが、最初に集団討論がありました。人数は十二人で、テーマは「第三セクターの役割について」でした。まず、一分ずつそれについて自分の考えを発表して、その後で討論でした。個人面接は、二十分くらいの面接が二回ありました。試験官は三人でした。

**A**　市役所の試験科目は、教養、専門ともに県庁と同じような感じでした。教養試験は、四十問で二十分、専門試験も二十分だったと思います。各問題とも三分くらいで解けました。集団討論は二次試験を受かった九人全員で円形になってやりました。まわりに五人くらいの委員の方がいました。個別面接は四人の方がいて、四対一でやりました。集団討論の時間は五十分で、A4の用紙がわたされ、五分間読む時間が与えられました。司会を作るかどうかは私たちの判断に任されていたので、とりあえず司会を一人立て、四十五分間討論をしました。捨て科目ですが、私は、教養試験の世界史と物理を捨てました。公務員は六割とれば合格すると言われているので、捨て科目を作って、他の科目に時間をかけたほうがいいと思います。

#### 面接と集団討論

**司会**　面接や集団討論についてお聞きしたいのですけれど。

**D**　国家Ⅱ種の場合は、二次試験がかなり複雑です。東北ブロックで受けた場合は、一次試験が受かってから、仙台での合同説明会で各省庁の仕事の内容を聞いて、自分の行きたい省庁を決めます。その間に、二次試験があって、面接を受けます。その後、いろいろな官庁に話を聞きに行きます。自分から質問するだけでなく、相手からも質問をされます。二次試験に受かって、最終的に自分の行きたい省庁で最終面接をするのですが、そこでは、入ってからどのようなことをしたいのか、なぜこの省庁を選んだのかとか聞かれるので、それらの点についてしっかりとした考えをもっていたほうがいいと思います。

**B**　県庁の場合、二次試験は面接で、個人面接が二回と集団討論がありました。面接では、新聞で取り上げられているような話題が聞かれます。

**A**　私が受けた市役所は二次試験で集団討論が五十分くらい、その後個人面接が十五分か二十分くらいでした。集団討論では、「活気あるまちづくりをするには」というテーマで五十分討論しました。個別面接では志望動機や大学生活のことなどを聞かれました。

### 民間企業

#### 就職活動

**H**　証券会社に決まりました。採用試験受けたのは、銀行、生命保険などの金融系でした。岩手県内しか考えていなかったので、三月くらいから合同会社説明会に参加しました。会社訪問や資料請求をはじめたのも同じ頃です。

**I**　私は銀行の総合職に内定しました。三年生の二月中旬に仙台で合同会社説明会があったのだけでなく、実は、自分自身についても、再確認、再認識することができるのは、おそらく、就職というこの機会をおいてほかにはない。

好機を逸することなく、安易に妥協することなく、ひとつうえの希望にむかって前進してもらいたい。

## 就職戦線をふりかえって

日本経済は、バブル経済崩壊後の「失われた十年」に引き続いて起こった「デフレ・スパイラル」という下降の渦にのみこまれ、たきのめされ、瀕死の状態にある。岩手県経済に対するその影響はいたるところに現れている。県内企業の倒産は、いとまない。誘致企業も軒並み撤退を余儀なくされ、失業者の数は増加の一途にある。

最初の卒業生を送りだした岩手県立大学をとりまく就職情勢はまさしく「氷河期」である。就職活動を支援するためのさまざまな試みは、経験不足のため、当初は、付け焼き刃の域をでないものも散見された。試行錯誤が続いたのち、支援体制は少しずつととのっていった。就職活動はこうした状況のなかではじまった。

「氷河期」という再三の喚起にもかかわらず、学生の就職に対する意識はどうかというえば、三年生になってもいまひとつで、説明会やセミナーが開散としている時もしばしばであった。原因は、一般的であるが、大学で何を学ぶのか、学んだことを職業とどのように結びつけるのかといったところにおける意識の低さにあるように思われる。

とはいっても、最初の卒業生の就職活動は終わり、彼らは四月から社会人としての一歩を踏みだした。待ちかまえているのは、それまでの人生経験からすると想像もつかないような最悪の経済状況である。送りだす側としても、「大丈夫だろうか」という不安はぬぐいさられていないが、彼らの就職活動の結果について報告と講評をする。

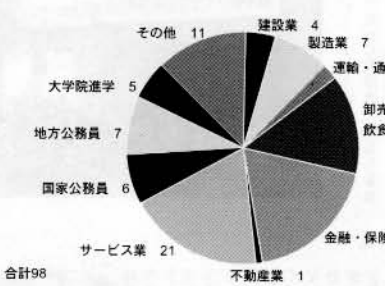
進路が決定したのは、三月末現在で、九十八名である。内訳は、就職が八十二名、大学院進学が五名、その他が十一名である。産業別内訳では、建設業が四名、製造業が七名、運輸・通信業が二名、卸売・小売業・飲食店が十五名、金融・保険業が十九名、不動産業が一名、サービス業が二十一名、国家公務員が六名、地方公務員が七名である。

就職率だけからみると上々のできであるが、今後の求人状況を考えると喜んでもいられない。理由はいくつかある。第一は、総合政策学部の大半の学生が岩手県内に就職を希望していること。第二は、就職に対する意識が低く、「なんとかなるさ」と思っていること。そして、第三は、公務員試験を見くびっていることである。

総合政策学部就職委員会は、先に、最初の卒業生の就職活動にかんするデータを集め、『就職試験データ集成』を作成した。彼らの報告書には、内定を勝ちえた喜びもさることながら、右のような点がかいまみえている。苦労と努力は評価するが、必死になって勉強して、第一志望の企業や役所に入ろうとする強い意志は感じられない。

今年の求人状況はさらに厳しくなるものと予想される。企業の業績がさらに悪化すれば、安閑としてはいられない。内々定がすでにでているところもあるとはいえ、就職戦線はこれからである。しかし、岩手県内の企業だけにこだわっていると、夏をすぎても内定がもらえないという事態になることは必至である。

状況は厳しいが、大学で学んだこと



で、その頃からはじめました。採用試験を受けはじめたのは三月中旬からで、資料請求もその頃から行っていました。

J　会社は鉄道会社です。就職活動は三年生の一月頃からはじめました。関東での勤務を希望している人とか大企業を受けたい人は、一月からはじめたのでは遅くて、二年生くらいからはじめている人たちと戦うので、もっと早くやらなければダメだと思います。

## 自己分析について

**司会**　どのようにして自己分析を行ったのかについてお願いします。

J　自己分析は、まず自分の過去の、悪いところ、いいところ、すべてをふり返りました。アルバイトの経験、いろいろな人との付き合い、そういったもののすべてについて細かく書いていくと、共通点が見えてきます。それが自分の性格や自分に適した職場のキーワードになってくるので、とにかく自分の過去をしらみつぶしに書いていくことがかなり有効だと思います。

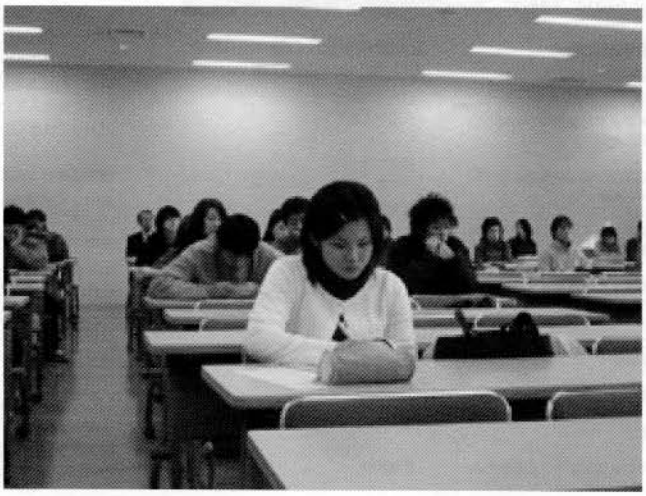
I　自己分析は就職活動のなかでしたという感じです。本命にしていた企業を一番先に受けてしまい、自己分析ができていなかったので、何も答えられなかったという経験があります。受けたい企業があれば、その前に、どんな企業でもいいので受け、まわりの人を見たりして自己分析をしてみると、自分というものが見えてくると思います。

## 業種・職種による活動のしぼり方

**司会**　業種や職種はある程度しぼって就職活動をしたほうがいいのでしょうか。

I　私は住宅業界と接客業界が希望だったのですが、しぼると他の業界があまりよく見えてこないので、この業界はいやだと思っていても、合同会社説明会などで一度話を聞いてみるのがいいと思います。

J　職種とか業界は本当にやりたいことがあるのならそれをやればいいのですけれど、まだぼんやりしている場合は、しぼらないで幅広く受けてみたほうがいいと思います。いろいろな会社を受けることによるメリットもあります。



## エントリーシート・合同説明会・面接・服装・挨拶

**司会**　エントリーシートの書き方で注意した点、失敗した点、面接にそれをどういうふうに反映したのかについて。次に、合同会社説明会や面接控室での注意事項。服装、言葉づかい、挨拶について気がついたことがあれば述べてください。

J　エントリーシートは決まった書き方はないと思います。あまりにも腹立たしいような書き方をしなければ、自分のアピールしたいところを書いたほうがいいと思います。文章は読みやすく、ポイントを押えた書き方をしてください。面接にどう影響するかですけれど、エントリーシートも作文も、選考過程で提出したものはすべて面接の時に手元にあり、それを見て面接をします。最後まで影響すると思ってしっかりやってください。合同会社説明会の注意事項ですけれど、仙台会場であれば、電力会社や銀行などは整理券を配るほどいっぱいきます。二時間待って、座ったとたんに「はい、質問は」って聞かれて質問がなければそれでおしまいというのもあります。特に質問したいことがなければ、話を聞いていて、ひたすらメモをとるだけでもいいと思います。

I　面接控室での態度ですが、面接官の方がいて状況を見ているので、騒いだりすると、マイナスになると思いますので、しっかりした態度をとっているのがいいと思います。服装については、女子の場合ベージュのスーツを着ていたり、真っ黒であったり、いろいろな色を着ていたのでそんなに気にすることはないと思います。ネックレスや指輪やピアスをしている人もいました。髪の毛の色は、最近では、少し茶色がかっていてもそんなに気にしないという傾向があるみたいです。でもやはり黒がお奨めです。ブラウスは白が一番お奨めです。挨拶は、会社にいったら「おはようございます」や「よろしくお願いします」という言葉をかけることをいつも心がけていました。本社には受付の方がいますので、その人にもきちんと「おはようございます。今日はこういう用事できたのですけれどもいってもよろしいですか」と用件を述べるようにしていました。就職活動が重なってくることがあるのですが、欠席するなら欠席するなりの電話や手紙、メールをだしておくことが大事だと思います。

## 採用試験のスケジュール

**H**　金融系を受けたので、最初にあったのが銀行の試験でした。銀行はエントリーをしてからだったのですが、証券会社は説明会にいって、その日のうちに一次面接でした。次に、支店で筆記試験、適性試験があって、最後に東京の本社で最終面接があって、内定出しという順でした。

J　業界をかまわず受けていたので、いろいろな経験したのですけれど、どんな企業でも大体同じです。最初に説明会があって、適性検査。その後に面接、その前に小論文というところもあるのですが、大抵は、試験の後が面接で、私が受けた鉄道会社は、一週間に二回面接があり、その日の夜に電話がかかってきて、じゃ明日来てっていう感じでした。

## 採用試験の内容

**J**　会社独自の問題はあまりなかったと思います。新聞や時事問題に関心を持っていればこなせる問題しか出ません。面接試験はどの会社も大体同じで、自己PR、志望動機、この会社に入って何ができるか、大学時代にどういうことをしてきたのか、自分の長所、短所などを聞かれます。同じ質問を聞かれることは多々あります。それは、言っていることが、付け焼き刃で考えたことなのか、本当のことを言っているのかを確認する意味もあります。どこでも聞かれる質問は「今の我が社の欠点を言ってください」でした。

**H**　銀行の試験で、SPI以外に、金融用語が並んでいて、その意味を答えるという問題があったのですが、金融用語は知っていたほうがいいと思います。論文では、「地方銀行の役割」や「自分が事業を起こすとしたらどのような事業をやってみますか」というテーマで書いてくださいという問題がありました。証券会社の場合は、SPIと面接のところが多かったのですけれども、私が内定をいただいた会社では「こうなりたいと思う自分」を絵に書いてくださいという問題が出ました。SPIは正答率が重要だというのを聞いていたので、時間がかかりそうなのは飛ばして、わかるものから解いていきました。

## 面接について

**I**　銀行で「ペイオフ解禁について」聞かれたのですが、勉強をしていなかったので何のことを言われて、「はいスタート」。誰かが中心になってやるなんて一切言わない。時間もしっかり計っているので、誰も何もやらなかったら進まないまま終わってしまうし、結論は必ず出してくださいと言われていたので、面接官は積極性やコミュニケーション能力を見ていると思い、自分が中心になってやりました。誰かが中心になってやっている場合には、逆に自分の意見をどんどん言うべきです。

## 入社確認と第一志望

**司会**　第一志望ではない会社に「第一志望ですか」「内定を出したら必ず入社しますか」というふうに聞かれたとき、どのように答えたらいいのでしょうか。

**H**　私の場合、第一希望ではない会社でも、面接の時は、「第一希望です」と答えていたので、他に行きたい会社がある場合でも「内定出したら入ってくれますか」と聞かれた時には、たぶん必死なので、「はい」と答えたと思います。

**J**　安全策で第一志望ですと言っておいたほうがいいと思います。現に、僕は「第二志望です」といって一社落ちました。とりあえずは、「第一志望です」と答えておいたほうがいいと思います。

## 面接官は積極性やコミュニケーション能力を見ている

**I**　銀行で「ペイオフ解禁について」聞かれたのですが、勉強をしていなかったので何のことを言われて、「はいスタート」。誰かが中心になってやるなんて一切言わない。時間もしっかり計っているので、誰も何もやらなかったら進まないまま終わってしまうし、結論は必ず出してください、と言われていたので、面接官は積極性やコミュニケーション能力を見ていると思い、自分が中心になってやりました。誰かが中心になってやっている場合には、逆に自分の意見をどんどん言うべきです。

## 入社確認と第一志望

**司会**　第一志望ではない会社に「第一志望ですか」「内定を出したら必ず入社しますか」というふうに聞かれたとき、どのように答えたらいいのでしょうか。

**H**　私の場合、第一希望ではない会社でも、面接の時は、「第一希望です」と答えていたので、他に行きたい会社がある場合でも「内定出したら入ってくれますか」と聞かれた時には、たぶん必死なので、「はい」と答えたと思います。

**J**　安全策で第一志望ですと言っておいたほうがいいと思います。現に、僕は「第二志望です」といって一社落ちました。とりあえずは、「第一志望です」と答えておいたほうがいいと思います。

## 面接官は積極性やコミュニケーション能力を見ている

**I**　銀行で「ペイオフ解禁について」聞かれたのですが、勉強をしていなかったので何のことを言われて、「はいスタート」。誰かが中心になってやるなんて一切言わない。時間もしっかり計っているので、誰も何もやらなかったら進まないまま終わってしまうし、結論は必ず出してください、と言われていたので、面接官は積極性やコミュニケーション能力を見ていると思い、自分が中心になってやりました。誰かが中心になってやっている場合には、逆に自分の意見をどんどん言うべきです。

## 入社確認と第一志望

**司会**　第一志望ではない会社に「第一志望ですか」「内定を出したら必ず入社しますか」というふうに聞かれたとき、どのように答えたらいいのでしょうか。

**H**　私の場合、第一希望ではない会社でも、面接の時は、「第一希望です」と答えていたので、他に行きたい会社がある場合でも「内定出したら入ってくれますか」と聞かれた時には、たぶん必死なので、「はい」と答えたと思います。

**J**　安全策で第一志望ですと言っておいたほうがいいと思います。現に、僕は「第二志望です」といって一社落ちました。とりあえずは、「第一志望です」と答えておいたほうがいいと思います。

# いわて5大学単位互換がスタート

このほど岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学と盛岡大学による「いわて5大学単位互換」の協定が結ばれ、四月から制度がスタートします。これによって学生の皆さんは、他大学の興味ある授業科目や進もうとする専門分野の勉強に役立つ科目を履修できるようになりました。ただし卒業年次の学生は通年または後期の科目に出願できません。受講は無料ですが、授業に必要な経費がかかることもまれにありえます。

募集は二月と八月の年二回行われます。新年度前期に各大学が受け入れる特別聴講学生の募集は二月二十五日からの週に行われました。県立大学には盛岡大学と岩手大学から併せて十余人、総合政策学部には、盛岡大学から五つの専門科目に延べ九人が出願しています。逆に県立大学からは社会福祉学部の学生二人が岩手大学に応募しました。

本年度前期については、たとえば岩手大学は、全学共通科目では「市民生活と法」など四十六科目、専門科目では、人文社会学部の「社会心理学」や農学部の「自然地理学Ⅰ」など四学部計百一科目、また盛岡大学は二十四の教養科目と文学部の専門科目「民俗芸能概論」など四十六科目を提供しています。一方県立大学は、教養科目では「歴史と文化」、「自己と他者」など十七科目、専門科目では、総合政策学部の「政策評価論」、「金融論」、「地域交通論」など三十三科目を含む四学部計八十二科目を開講しています。定員は大方五人または十人です。本年度は試行の年で、実施の細目は経験を踏まえて、改善されると期待します。

単位互換により修得した単位は、総合政策学部では、(一)他大学の教養科目から六単位まで全学共通科目のうち教養科目の卒業要件として認定される、(二)他大学の専門科目からは一定の条件つきで十単位まで、本学部の展開科目の卒業要件として認定されます。

(二)については、行政・経営コースと環境・地域コースではそれぞれ自コースの展開科目の単位に認定可能と指定した他大学専門科目のリストから六単位まで履修コース系列の展開科目の卒業要件単位として認定し、他コースが同様に認定可能と指定したリストから四単位までを履修コース以外の展開科目の卒業要件単位として認定します。

八月に特別聴講学生の募集が行われる後期の開講科目については、その時期に配布される「開講科目一覧表」を参照してください。皆さんも単位互換によって他大学の科目を履修する機会について考えてみませんか。

からこそ、学部生に聞いてみました。

# 総合政策学部とは？」

# 1@座談会

第2回

参加者：前田 敏幸　（4年）
小向 優子　（2年）
庄司 麻美　（2年）
岡本 智子　（1年）
聞き手：尾形 真紀子（3年）

「せっかく雪国の大学にいるんだから」と、卒業を間近に控えた4年生が企画した、総合政策学部の新しいイベント「雪祭り１Ｎ湯沢」。自治会のメンバーも運営に携わり、「打倒！小岩井、献血推進」を合言葉に、急ピッチで準備が進められた。そして晴天に恵まれた２月１５日、趣向を凝らした雪合戦やジャンボかるたなどの競技で参加者は雪まみれに。笑顔と歓声はグラウンド中に溢れた。寒さも自分の歳も忘れて「何かをつくること」を楽しんできた人たちは、雪祭りの後、総合政策学部とそこにいる自分について話してくれた。

## アンケート集計結果

### 総合政策学部に抱くイメージ

- 受身じゃダメで積極的じゃないといけない学部
- 自主的に学習していかないとつぶしのきかない学部
- 「まだ味のしみていないおでん」のような学部
- 学生が頑張ってもうちょっと時間が経ればかなりいいものになる可能性のある学部
- 未来ある学部
- あらゆる分野について学べるところ
- 器用貧乏
- はたから見ればなにをするかがわかりづらい
- 意味不明
- 主体的に学ぶ気持ちと興味があれば世の中の様々な事象について深く広く学べる
- 社会に出る学部　柔軟な考え方を持った学部
- 混沌
- 元気があれば何でもできる学部
- 何でも屋　でも好きなことができる学部
- 無限の可能性がある学部
- 新しいことをする学部
- 広い視野で夢をかなえる学部
- 一つのことに限らず色々な分野の勉強をすることができる学部だが反面統一性がない面もある
- 学生一人一人が多様な関心を抱いていることは間違いなく 互いに刺激しあえる学部
- 専門分野を集中して学べない　広く浅くといった感じ
- 「なにソレ？」というようなアバウトな感覚
- 新しい分野の学問　勉強が中途半端
- 曖昧
- 広く浅く勉強するので個別の専門分野に弱い
- 自分の目的をもっている人にとっては満足できる学部
- 外部の人も何をやっているかがよくわからないし学生の多くもそれをうまく説明できずに閉絶している状態

### 総合政策学部にいる自分のこれからの目標

- 教職をとる
- 首長になりたい
- 打たれ強くなる
- 卒業すること
- 政策・情報学生交流会IN岩手をやること
- 少しでも地域に還元できるような研究をすること
- 盛岡ゼミがんばる
- 社会貢献
- この学部ならではの活動をもっと積極的にやってみたい
- メディア教育と地域コミュニティの可能性の研究
- 自分が就きたい職業に必要な知識と能力を少しでも多く身につけること
- 環境コースで調査をたくさんする
- 岩手県をより良くする
- 自己実現
- 自分の知らない分野にも足を踏み入れること
- 受け皿を限定しないで何でも吸収すること
- 経営学系全般を学ぶ
- 卒論を完成させ、絶対4年で卒業する
- 自分の住む地域のことについて考えられる力を身につけたい
- 将来自分で会社を設立したい
- 地域通貨実験の実施
- 市民活動に携わること
- もっと外に出てこの勉強を試してみること
- 学内自主的活動
- 卒論、実習を納得できるものとする
- カーシェアリングについて学びたい

アンケートは全学部生を対象にメールで回答を求めたものです。

## 編集後記

１年前のある日のある場所、その場の雰囲気だけで「新聞部に入りますよ！」と言った私がいました。気合いだけは十分だったものの、その後は「なんとなく部員として過ごしてきた日々だったなぁ」というのが本当のところです。
そんな私が、いつの間にか部長となって、現在こうして編集後記を書いています。部長にはなってみたものの、何をやっていいのかが全然わからず、今回の企画も苦労の連続でした。でも、先輩の暖かいアドヴァイスや部員のみんなの協力もあって、“へっぽこ部長”ではあったものの、なんとかこのような形で完成することができました。本当に嬉しく思っています。
これからの新聞部は、今まで以上にパワーアップしていく予定です。今回の記事を見て興味を持ったあなた！私達と一緒に楽しい時間を過ごしてみませんか？「新聞部入りますよ！」その一言で大歓迎です。

編集メンバー：栗山 隆志　岩泉 美奈子　大和久 ひかり　尾形 真紀子　木村 理恵
黒川 俊幸　及川 歩美　岡本 智子　佐藤 道尚

**前田：** 4学年そろって、やっと大学になったって感じ。うちらは１期生で、大学をつくっていくってとこがあったけど、大学というものに対して、後輩の子たちがどういうイメージ持って入ってきたのかなってとこ聞きたいね。
**小向：** 私は大学には先輩・後輩のつながりは絶対あると思って入ってきたんだけど、（あまりなくて）正直５月くらいには大学に入って失敗したかなって思ったときがあった。

**■今は変わってきた？**
**小向：** 全然違うと思う。自主的に行事とかやったりしてるうちに…。
**庄司：** でも何かやるようになったのって交流会（政策・情報学生交流会）に行ってからだよね。
**小向：** 他の大学の人と会って、他の大学はこうだって話を聞いて。
**前田：** うちらには先輩がいなかったから、大学入って何していいかっていうのが全然わかんなかったし、行事もなかったし。かといって、後輩が入ってきても、どうしろっていうこともないし。本当に全部一からつくっていく感じだった。
**小向：** 今は行事もだんだん増えてきたよね。
**前田：** 今回の雪祭りも、そういうきっかけにしたいなあってことでつくったのね。

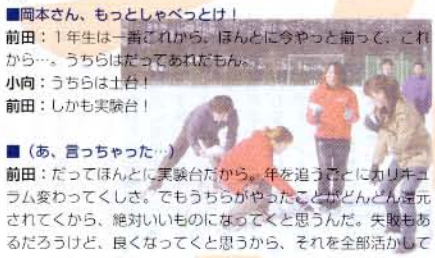
**■前田さんが入ったときと、岡本さんが入ったときとでは、たった３年で状況が全然違うけれども。**
**岡本：** 先輩がいないというのは、ちょっと想像つかないですね。でもやっぱり、入学した頃は先輩と触れ合う機会が全然なくて。自分で動くようになってから、だんだん先輩と知り合えるようになりました。
**小向：** まだ４期生までしかいないから、自分たちで動かないと何にも始まらないね。

**■２年生のふたりはもうゼミを決める時期だけれども、前田さんのときは「そのゼミはどんな感じなんですか？」って聞く先輩がいなかったわけだからね。**
**前田：** ちょっと損してるなって思うのは、うちらは結構与えるばっかりなんでね。後輩に情報流したりとか。
**岡本：** 今はもう、すごく与えられてますね。

**■岡本さんは入学から１年しか経ってないけど、総合政策学部に入って変わったことはあった？**
**岡本：** やりたいことだけ見て入ってきたんですけど、いろんなことを学んだことによって、意外に興味のなかった行政とか経営とかも、やり始めたらおもしろいな。こういう考え方もあるんだなって。
**前田：** 俺の専門は環境の分野になるんだけど、例えば橋を作るとか山の中に道路を通すといった場合に、許可をとったりすることで行政のことが関わってくるし、経済のことが関わってくるし、山を持ってる地域の人たちの感情、山にいる動物、鳥とかそういう自然への影響も…総合政策学部で学ぶことが全部関わってくるんだよね。そう考えてみると、うちの学部はそういう全部の視点を持って見ないと分からない。いろんなことを知っている上で自分の専門を持って、そこにからめるっていう。そういう意味でうちの学部っていうのはいろんなことを学べるから、すごくいいなって反面、ちょっと浅いなって。経済とかはどうしてもさ、短期間で学べないでしょ。
**岡本：** 浅く、広く最初は見て、だんだん専門的なものを…。
**前田：** 浅く広く見て、２年生の後期なり３年生で専門性を深めるってカリキュラムになってるけど、他の分野も見てほしいなっていう考えもある。４年生になって、自分の専門やってればいいやって人もいるんだよ。そうしたらもう、この学部のカラーみたいなものがなくなっちゃうんだよ。
**庄司：** ３年生になるときに、専門演習でコースが分かれるでしょ。それですごく迷って、先輩とかにも相談したんだけど、決めるときに友達が、「でもこのコースに行ったからって、これしかできなくなるっていうわけではないよね。総合政策だから、足りないところは他の先生のところにも聞きに行けるし、友達にも聞けるし、それを専門にやってる人にも聞ける」ってことを言ってくれて。そこに絞ったからそれしかやれなくなる、ってことはないでしょ。そういうときに総合政策の意味が見えてきた気がする。

**■うちの先生たちはもちろん総合政策学部の先生なんだけれど、本当に専門を極めている人たちだから、私が思うのは、総合政策というものを体現できるのは学生しかいないんじゃないか、って。広く浅く学ぶことで、メリットもデメリットもあるけれども。**
**前田：** 広い視野を持つってことは、結構大事だと思うんだよね。たとえ浅かろうがね。
**■ところでここにいる４人は、自分のことだけじゃなくて、すごく学部全体のことも考えてる人たちだと思うんだけど…。**
**一同：** いやいやいや…。
**小向：** 自分が楽しむばっかしでもう…。
**前田：** 自分が一番だから（笑）。

**■でも、私も自分が楽しむためには、自分のいる環境を人間関係なんかも含めて良くしていく、それで自分も楽しくやりたいって気持ちがあるからね。**
**庄司：** 先輩ができて、楽しくなった。最初は本当に何もなかったよね。３年生になると、行政・経営と環境・地域に分かれちゃってなかなか会えない人も出てくるから、いろいろ企画したい。
**■岡本さん、もっとしゃべっとけ！**
**前田：** １年生は一番これから。ほんとに今やっと痛って、これから…。うちらはだってあれだもん。
**小向：** うちらは土台！
**前田：** しかも実験台！



**■（あ、言っちゃった…）**
**前田：** だってほんとに実験台だから。年を追うごとにカリキュラム変わってくしさ。でもうちらがやったことがどんどん還元されてくから、絶対いいものになってくと思うんだ。失敗もあるだろうけど、良くなってくと思うから、それを全部活かしていってほしいと思う。まあ、自分がこれから何をやりたいかだね。
**岡本：** 勉強だけじゃなくて、いろんなイベントとか仕事とか、何でも挑戦したい。確かに学部のカリキュラム全てが自分のやりたい道につながってるわけじゃないんですけど、間接的にでも少しでも自分の成長になればいいなあと思って。とりあえずあと３年間…。
**前田：** ３年もあるのかー、俺もうねえよ！
**岡本：** みんなで楽しんでやってけたらいいなって、今そう思ってます。

**■今まで１年生から４年生まで集まって何かすることってあまりなかったと思うんだけど、今日この先輩の熱弁を聞いてどう感じた？**
**岡本：** 前田さん、いつもふざけてて、専門の熊の話以外で真面目な話はあまり聞いたことなかったので（笑）、ちょっと今日は「すごいな」って。
**前田：** だって常に真面目な話をしてもさ。俺がいつも考えてるのは、「よく遊び、よく学べ」なんだよね。確固たる自分を持ってれば、たとえ間違ったことしても戻ってくると思うし。あと、ちょっとさっきアンケート結果見ておかしいなと思ったのは、自分のこれからの目標で「卒業すること」って書いてあるでしょ。これはちょっと寂しいなって思うよね。
**岡本：** もったいないですよね。
**前田：** うちらの価値観からすると、それはちょっともったいないなって思うんだけど、でもその人の価値観からすれば、別にこれはこれでいいんだってことだと思うんだよね。ただ、そういう人たちが、少しでもうちらが何かすることによって「何か面白そうだな」って思ってくれたら、それでいいと思うし。
**岡本：** 機会をたくさん作っていきたいですね。
**前田：** 「こういうことやってるけど、来てみたらどうですか？」って。

**■じゃあ、小向さん。これからについて思うところを。**
**小向：** 自分は環境コースのためにここに来たんですよ。最初は「興味がある」とは言っても環境問題って漠然としてたんだけど、それにもいろんなアプローチがあるんだなって講義受けてるうちに分かってきて。それで、自分が自然に受け止めてしまう情報っていうのを最近発見して、それが本当に自分のやりたい分野なんだなって。今目標が見つかって、何かとっても嬉しいんですよ。あと自分のこれからの目標は、くどいんだけど、みんなが勉強のほかにも一緒に頑張れる、例えば今日みたいな雪祭りとかで思い出を一緒に作っていきたいのね。
**岡本：** 英語の伏見先生が、最終講義でおっしゃってたんですけど、「出会いが積もり積もって人生となる」って。それ聞いて、「ああ、大学入ってほんとにあたしはそうだな」って。出会いによって自分の夢であるとか、活動とかの範囲が広がって、視野も広がりましたから。

**■何万と学生がいる大学じゃなくて、人数が少ない大学で困ることもあるけれども、やっぱりこういうつながりがあるから、何かうちの大学いいなって思うよね。**
**庄司：** このごろ思うね。
**小向：** うん、２年目にして思うようになったね。

開学から4年という節目を迎えた今だか

「あなたにとって総合

# 総政 古今東西

第1回

今回、MONTO取材班は総合政策学部の学生にアンケートを取り、その結果から総合政策というものはどういうものなのかを学生に改めて考えてもらおうと思いました。集計結果は「なるほど」と思う部分もあり、この内容はどんな意味を持っているのか…。学生が今どういう気持ちや考えをもっているかを学部外の人達にも知ってもらいたいというのもあって、3人の方に座談会形式でお話をうかがいました。

参加者：富樫 昭典（4年）
工藤　匠（3年）
平　学（3年）
聞き手：栗山 隆志（2年）

**■<総合政策学部で学んできたことによって変化したこと>の問いから読み取れることは、「ものの考え方に変化があった」ということだと思います。多くの人がこの学部で学んでそう感じているようですが、皆さんはどうですか。**

**富樫**：私も、入学した当初はどういう学部であるかはわかりませんでした。今は、「総合政策では何をするの?」と聞かれた時の答えは一応用意してありますが、4年間過ごしてみてもやはり分からないというのが正直なところです。
私は世の中にある色々な問題を解決していくための処方箋としてあるのが「政策」であり、それを処方するのが先生や学生であると思います。また、その「問題」とは単一的な問題ではなくて、複合的であると思います。
ホームレスの問題を例に挙げれば、経済学的視点では「自助努力が足りない」となるでしょうが、本当の原因は他のことかもしれません。現在の世の中は、複雑に絡み合った問題があり、色々なジャンルの先生が投入されることによって問題解決へのアプローチをする、それが総合政策ではないのかと私は認識しています。

**平**　：入学前の私は、物事を一方向からしか見ることができなかったと思います。興味のあるものは色々あったのですが、それらを繋げる"線"みたいなものがありませんでした。でも、この学部で3年間学んだことによってそれらが繋がったような気がします。
その考え方を理解していない人に対して、一言で「(総合政策とは) これだ！」と説明するのは難しいのですが…。

**■一言で説明すること自体が物事を一方向からしか見ていないということなりかねませんね。**
**富樫**：総合的じゃないですよね。

**■工藤さんは岩手県出身ということで、他県の人に比べると入学前からこの学部へのイメージが湧きやすかったのではないでしょうか。**
**工藤**：入学前は、大学自体が「新しい」というイメージがありました。(入学前の)高校生のイメージは、せいぜい「色々なことが学べる」程度でしかないと思うんです。実際、1・2年では色々な分野が中途半端で、「広く浅く」終わってしまうんです。私も当時はこれが本当に役に立つのか疑問を感じていました。でも、今3年になって専門を持つようになり、今まではある問題に対して一つの方向からしか見ることができなかったのが、以前学んだ他の分野からも使えそうなものが出てきました。今になって初めて総合政策に入った意味というものがわかった気がします。

**■確かに、3年からは"専門"と名のつくゼミができて、ある程度「一つのものの見方」が定まってきますね。**
**工藤**：それと、この大学の利点は、人数が少ないことで先生1人に対する学生の割合が少なく、気軽に先生のところに話を聞きに行けることですね。マンモス大学のようなところでは多分できないでしょう。
**富樫**：それがこの大学の売りではないでしょうか。

**■やはり、1・2年のときは総合政策が見え辛いものですね。**
**次に、<総合政策学部に抱くイメージ>についてですが、これは大きく二つの内容に分けられると思います。一つは学部外から見た「何をしているのか分からない」ということで、もう一つは学生の目から見た「主体性の求められる学部」ということです。**
**富樫**：簡単に説明できてはまずいし、そんなに単純に理解してもらっては困るけど…。

**■難しい議論ですよね。主体性をもって学ぶのはどの大学でも必要なことですが、幅広い分野を学ぶこの学部では、「無限の可能性」などというイメージが出る一方、「広く浅く」などというイメージも浮かんできます。そのような状況のこの学部で、主体性を得るためにはどうすれば良いと思いますか。**
**工藤**：2年までの私は、自分自身の主体性に疑問を感じていました。3年になってから「キャリア形成研究会」から声がかかって、初めて組織というものの中で活動することになり、そのような講義以外の活動を通して「このままの自分ではダメだ」と、危機感を抱くようになりました。それからは、自分から勉強するようになり、講義以外でも先生に話を聞きに行ったり、本を読んだりするようになりました。自分自身が目的を持たないと、受身の姿勢になってしまうんでしょうね。

**■キャリ研が、変わるきっかけになったと。**
**工藤**："Turning Point"になりましたね！

**■後になればそれがきっかけだったと気がつくけど、見過ごしてしまえばそれはきっかけにはなりませんよね。どうしてキャリ研がきっかけとなったのでしょうか。**
**工藤**：自分自身が専門でやり始めた社会調査を、キャリ研の中で必要としてくれる人がいたからですね。ちょうど、自分自身が大学で何をすれば良いのかを考えていた時期でもあり、何もしないでいるよりはずっと良いかな、と感じたからです。「きっかけ」は、他のものになったのかもしれないけど、自分自身にとって一番大きかったのがキャリ研だったんです。
**平**　：主体性を得る方法は個人によってそれぞれ違うだろうから、「こうすれば良い！」というのは無いと思います。私自身は、この大学に来た時点で他の人達と違う経験を経てきたので、勉強というのは自分から取り組んでいかなければならないという気持ちが入学前からありました。この学部の先生は、学生がやる気になれば受け入れてくれるような方ばかりで「こういうこともやってみたら?」と、課題なども出してくれます。この学部には、学生が本当に小さい一歩でも、自分の足で踏み出すことができれば、それを受け入れてくれるような空気が、先生の間にも学生の間にもあると思います。

**富樫**：むしろ先生がそういうことに凄く気えているような気がしますね。
**工藤**：学生が動けばなんとかなる学部ではあると思います。
**平**　：表立ってないだけで、他学部の学生よりはここの学生のほうが元気はあると思います。
**富樫**：残念なのは、それがなかなか先生方には見えていないことですね。

**■1人1人にはパワーがあるのに、それを互いに知りえないことがあるように思いますが。**
**富樫**：ある程度双方の利害関係もあると思いますね。先生が学生に求めるものは学生には嫌なものかもしれない。例えば、学生が何らかの運動を行っても、先生はそれを望まないかもしれない。総合政策の学生が何らかの政治活動をしたりしたら大変なことになるでしょうね（笑）。

**■デモ隊の最前列と最後列で主張が正反対とか（笑）。**
**富樫**：そういう意味でも学生は個性的なのでは（笑）。

**■そういう状況でのジレンマが、総合政策というものを外部に発信する時に、うまく伝えられない理由の1つではないでしょうか。**
**富樫**：それを話し続けると哲学論争になってしまってきりがないけど、ある程度は一言で言い表せるレベルはあった方が良いのかもしれませんね。
年配の方に割と多いのですが、「総合政策学部にいるってことは、将来県庁に入るんだね」などと言われた時には困ってしまいました。「『政策』とは、役所のやることだから」とか、「それを学んで、県庁に入って岩手県に還元して、そのような有意な人材を作る…総合政策学部はそういう所なんだね」とか、そういうイメージが蔓延していくのであれば問題ですよね。

**■この学部は公務員養成機関ではないので、ある程度はわかりやすいアピールをする必要もありますね。**
**最後に、<総合政策学部にいる自分のこれからの目標>という部分を見ていきたいと思います。地域に根ざした大学ということもあり、そういったことを目標とする学生も多いようですが、みなさんはどうでしょうか。**
**平**　：入学前には「ここで学んだことで地域に貢献できる人間になりたい」という気持ちがありましたが、実際にここで3年間学んできた中で、とてもそのような大それたことなどできるはずないな、と感じています。今はそんな大それたことでなく、本当に小さいことでも自分が学んだことを社会に還元できれば、それがこの地域が良くなっていくことへ繋がるのではないか、そう思っています。
**富樫**：入学当時の目標は卒業でしたが、卒論も一応提出したのでそれが通れば当初の目標は達成できることになります。これから大学院へ行くので、次の目標は、そこで何をするのかが問題になりますが…。
平君の「いくらかでも地域に還元できるような気概を持って」というのがとてもいいなと思います。直接的に何かができれば一番いいことだけど、1人1人の学生がそのような気概を持つだけでも十分良いと思いますね。県立大があること自体、岩手県に若い人が残るなど、ある意味地域貢献ではないかと思います。
悪いことさえしなければ(笑)。

**■今日の感想をお願いします。**
**工藤**：富樫さんと知り合えたのが大きかったです。これからもフル活用したいと思います（笑）。4年生とこのように話し合う機会もなかったので、富樫さんが大学院へ行ってもこのような繋がりがあればと思います。
**平**　：この座談会にいて良かったのかなぁ…？と思います（笑）。新設大学の自由さの中で、みんながそれぞれやりたいことをやっていけば、この学部の良さを生かして行けるのではないかと思います。
**富樫**：総合政策が今後どのような方向に向かっていくかに立ち返ると、個々人は考え方もそれぞれ違うので、それを一つにまとめていくのは無理だと思います。でも、その中から「大きなうねり」みたいなものができあがっていくのが面白いのでは、と思います。

**■その中から、気がついたらこの学部の形みたいなものができあがっているのでしょうね。**
**平**　：それができるような環境であって欲しいです。
**富樫**：客観的に4学年を見ることのできる大学院が楽しみですね。

**総合政策学部で学んできたことによって変化したこと**

- 興味を持って新聞を読めるようになった
- 色々な学問分野のことを学ぶうちに他のことも「知っといて損は無い」「むしろ知らなきゃだめだ」と思うようになった
- 専門を持つことが大事だということ
- 講義を受けたことによって関心のあるものが増えた
- 政治経済、社会、環境問題に対する考え方
- あまり興味がなかった行政・経営系も学んでみようと思うようになった
- 見識や人との付き合い
- 行政のことを考えるためにも環境の知識が必要だということ
- 勉強に対する考え方が変わった
- 主体的に行動することで 自分に自信がつき、精神的に強くなった
- 様々な視点からの考え方
- 世の中の渡り方
- 価値観
- 政策に関係することだけだと思ったがそれ以外の専門的なことも学べるとわかった
- 自分の関心があること以外の勉強をしている友達がいるので 知的刺激を受けられる
- 複合的なものの見方と捉え方
- 当初は公務員になろうと思って入学したが、経営系・数理系の学問を学んだことによって民間企業にも関心を持つようになった
- 入学した当初に抱いていたことよりほかのことに興味を抱くようになった
- 広い視野で物事を考えること
- 物事を多角的に見ること
- 今まで一切興味がなかったことに関心を抱くようになった
- 世の中の情勢の解決法のヒント
- 問題へのアプローチの仕方

※アンケー

「研究最前線」

# 金融工学における大学と企業との相互協力

今井潤一
総合政策学部専任講師　博士（工学）

東京工業大学大学院社会理工学研究科助手を経て1999年より現職。専門はフィナンシャル・エンジニアリング（金融工学）、コーポレート・ファイナンス（経営財務）。著書に「基礎からのコーポレート・ファイナンス」（共著）など。

## デリバティブ研究のためカナダへ留学

経営財務やプロジェクト評価についての講義を持つ今井潤一先生は、昨年の夏までの二年間、海外特別研究員としてカナダのウォータールー大学へ留学していた。現地では大学内の「先端金融研究センター」に籍を置き、大学生時代からのテーマである「デリバティブ（金融派生商品）」の研究を行っていた。

デリバティブとは、株式などの金融商品の将来の価格に基づいて交わされる契約。例えばデリバティブの一種である先物とは商品の予約売買のこと。現代の金融市場や相場においては、多様化・複雑化する金融リスクを回避する手法のひとつと注目され、その理論の構築やリスクの管理には高度な数学や統計・シミュレーション技術などの手法が利用される。

ウォータールー大学の「先端金融研究センター」は、そんな金融関係の研究者や学生が世界各国から集まる場であり、今井先生いわく「自己紹介ではお互いの出身国を聞くのが習わしで、カナダ国籍を持つ人はむしろ珍しい」という程の国際色豊かな環境。当然それぞれの言語や文化様式からくる違いは存在していたが、そこは同じ目的を持つ研究者同士だからとまどいを感じることはなく、むしろ考え方の違いから生まれる発想の斬新さに刺激を受けることのほうが多かったそうだ。

## 金融分野で進む大学と企業間の共同態勢

ではなぜ、カナダの大学にこのような世界レベルの金融研究機関が存在するのか。それには二つほど理由が考えられる。

一番目の理由は、やはりアメリカとの地理的な近さである。いうまでもないが、アメリカは世界の金融経済の中心地。とりわけデリバティブ取引におけるシェアは世界最大で、新しいデリバティブはまずアメリカから生まれることが多い。現在、デリバティブの対象は穀物や畜産物などにとどまらず、金融商品から果てはエネルギー（電力）や気象現象（気温・降水量）などにも広がっているという。

しかし、新しい商品には当然ながら問題も多い。企業はそれら取引のリスクを減らし、効率的に利益を得る方法を研究する場と人材を確保しなくてはならない。その条件に適うのが専門家を擁する大学の研究機関であり、特に理数系を中心とした研究で世界的に高い評価を得るウォータールー大学は理想的な環境を有しているといえた。

ちなみに今井先生が在籍していた当時には、昨年米企業最大の倒産を引き起こした「エンロン」のニューヨークのマネージャーが、エネルギーデリバティブの現状を発表しに来学したこともあったという。アメリカにとって、カナダは地理的以上に親密で重要な経済パートナーであることがうかがえる逸話だ。

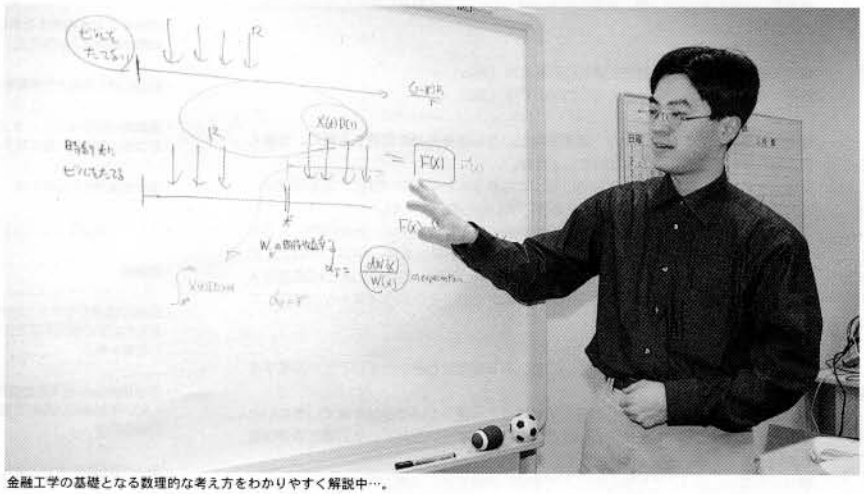
留学先でお世話になった先生方と今井先生（左から2人目）

## インターンシップにおける社会と大学の在り方

もうひとつはウォータールー大学が民間との相互協力に重点を置いていることである。なかでも重視するインターンシップ（就業体験）へは社会的理解も大きい。

カナダの大学の修学学期はサマータール（九～十二月）、ウインタータール（一～四月）スプリングターム（五～八月）、の三期に分かれる。同大学の学生（修士課程を含む）は卒業までのいずれかの期間にワークターム（就業学期）を選択し、実社会で働かなければならない。次のタームが始まる前には大学にインターンの募集が舞い込むが、受け入れ企業はカナダのみではなく世界中だという。また募集職種も高度な技術や知識を求めるものが少なくなく、今井先生は「数ヵ月しかいない学生にこんな仕事を任せるとは」と驚くこともあった。この方式は学生はもちろん企業にも大好評で、カナダ社会の中にすっかり浸透している。

「このようなシステムの構築は一般的な大学主導方式ではなかなか進まない。カナダは大学と社会が興味深い形で繋がっています」と今井先生は言う。



金融工学の基礎となる数理的な考え方をわかりやすく解説中…。

## 日本社会の急務は新システムの構築

地理的優位性とインターンシップの実績。カナダの大学とビジネス社会の協力関係は、この取り組みの中で構築され、ともに発展を遂げてきたといえるだろう。日本には、このシステムは導入できないのだろうか。

カナダ、そしてアメリカのシステムも見聞した今井先生は「それぞれの特徴を理解し、日本独自のシステムを作り上げる必要がある」と言う。なにより、今の日本は大学はもとより社会すらも「過保護」であるから、まずは健全な競争原理と評価システムを取り入れていくことが急務と言う。そのためには大学だけではなく社会も変わる必要があると先生は考えている。

総合政策学部では、これまでも企業・行政・大学が垣根を越えて結び付いていくため多角的な視野から学習・研究を行ってきたが、今井先生の体験をヒントに、より一層開かれた大学・社会づくりの取り組みを進めていくことが課題になるだろう。

---

# 生活の中の数理
## ――ナンバーズを考える　その2

渡辺隆裕

前回は「ナンバーズの当選番号の系列を見ると偏りがあって予測できそうな気になることもあるが、それは乱数や確率に対する錯覚である」という話をしました。ナンバーズは乱数であり、当選番号を予測する方法はないと考えられます。

しかしナンバーズでは、その当選番号を選んだ人が少なければ、当選者の賞金は多くなります。これは賭けられた金額を（主催者が控除した後に）当選者で分けるナンバーズの仕組みによるものです。したがってナンバーズでは皆が選ばない「不人気な数」を選ぶことで賞金が高くなると考えられます。そこでナンバーズ３のストレート（3桁の数字をその順番も含めて当てる）を例にして、人気・不人気な数を考えてみます。

表１は、第41回から第600回までの560回のナンバーズのうち、いくつかの条件に当てはまる当選番号の出現回数と賞金の平均金額を表にしたものです。（最初の40回をはずしたのは、このような「くじ」は開始直後には傾向が安定せず、異常値を含む可能性があるからです。）

全560回の平均は98,747円です。当選確率が1000分の１であることを考えると期待値は約99円です。ナンバーズが200円であることを考えると、主催者の控除率は実に50%であることが分かります。通常の宝くじも控除は約50%で、宝くじはわりに合わないギャンブルであることが分かります。

どんな数が人気・不人気なのか考えてみましょう。まずロトなどでも知られていることですが、人は誕生日や記念日などをラッキーナンバーとして選ぶことが多いようです。したがって、日付に読める数に比べ、日付に読めない数は人気がないと考えられます。例えば、私の誕生日は6月28日ですが、これに相当する628などは日付に読める数です。これに対し、一般的に下二桁が32以上の数は日付に読めません。ここで3月5日などは305と考え、035とは読まないこととしました。表を見ると、日付に読める数は平均を下回り、読めない数は平均を上回ることから、この考え方がある程度正しいことが推測されます。

またホテルの部屋番号などで分かるように、日本人は「死」を意味する4や「苦」を意味する9という数を忌み嫌う傾向にあるため、このような数も不人気と考えられます。確かに4や9がつく数も平均を上回っており、特に4と9の両方がつく数は111,664円と高い平均賞金額となります。

同じ数が3つ並ぶ数字は560回のうち8回出ていますが、いずれも賞金はぐっと低くなります。例えば第309回には777が出ていますが賞金は57,100円です。第600回までの最低賞金額は第476回の39,800円ですが、この時の当選番号は111です。ナンバーズで3つ同じ数字となる数を選ぶほど愚かなことはないといえるでしょう。これに対し、同じ数が2つだけある数字の賞金は非常に高くなることが分かります。これらは人気・不人気だけではなく、ボックス・ストレートに対するナンバーズの賞金配分の仕方にも理由があるかもしれませんが、詳細は分かりません。

これらをすべて合わせて『日付に読めない２連番で４と９の両方がつく数』という条件を満たす数（994、494など）を見てみると、このような数は4回出ており平均賞金額は155,650円と非常に高くなることが分かります。

ちなみに表2は第1回から600回までのナンバーズの高額賞金ベスト20です。この表を見ても「日付に読めない２連番で４と９の両方がつく数」は賞金が高いことが裏付けられます。ちなみに最高金額は第2回の988で、初期の頃の不安定さも重なって高額の当選金になっています。

これでナンバーズのちょっと良い数が分かりました。しかし残念ながらこのような不人気番号は、それが知られると皆が選ぶために人気番号となってしまいます。MONTOに出た時にはもう遅いかもしれませんよ。

こう考えると、結局、ナンバーズの必勝法は「必勝法で薦められていないような数」と言えるかも知れません。

表1　ナンバーズ3ストレートの条件別平均賞金額

| | 条　件 | 出現回数 | 賞金の平均値 |
|---|---|---|---|
| A | 全体 | 560 | 98,926 |
| B | 日付に読める数 | 162 | 82,190 |
| C | 日付に読めない数 | 398 | 105,738 |
| D | 9のつく数 | 168 | 102,496 |
| E | 4のつく数 | 136 | 103,498 |
| F | 4と9の両方がつく数 | 33 | 111,664 |
| G | 3つ同じ数が並ぶ | 8 | 70,075 |
| H | 2つ同じ数が並ぶ | 145 | 115,210 |
| I | 日付に読めない２連番（CかつH） | 108 | 122,954 |
| J | 日付に読めない２連番で４と９の両方がつく数（IかつF） | 4 | 155,650 |

（第41回から第600回まで）

表2　第1回から第600回までのナンバーズ3の賞金額ベスト20

| 順位 | 回 | 当選番号 | 賞金額 |
|---|---|---|---|
| 1 | 第2回 | 988 | 333,500 |
| 2 | 第21回 | 568 | 250,100 |
| 3 | 第115回 | 770 | 215,000 |
| 4 | 第469回 | 949 | 206,500 |
| 5 | 第96回 | 944 | 201,900 |
| 6 | 第149回 | 003 | 201,000 |
| 7 | 第44回 | 697 | 199,500 |
| 8 | 第94回 | 933 | 196,400 |
| 9 | 第113回 | 744 | 191,100 |
| 10 | 第26回 | 984 | 190,100 |
| 11 | 第45回 | 970 | 186,600 |
| 12 | 第252回 | 004 | 184,900 |
| 13 | 第138回 | 995 | 179,800 |
| 14 | 第102回 | 560 | 179,300 |
| 15 | 第202回 | 676 | 176,900 |
| 16 | 第146回 | 766 | 166,900 |
| 17 | 第563回 | 080 | 164,200 |
| 18 | 第409回 | 400 | 164,000 |
| 19 | 第342回 | 686 | 162,800 |
| 20 | 第82回 | 144 | 161,600 |

# 学生の就職意識を分析する 学生キャリア形成研究会

岩手県立大学 学生キャリア形成研究会（代表・総合政策学部3年・佐藤泰貴）は、「大学生のキャリア形成に関する意識調査」を通して、「どのようなタイプの学生が、就職に対してどのような意識をもっているのか」や「大学側にどのようなサポートを求めているのか」を明らかにすることを目的としてスタートしました。

「キャリア」は「人の一生を通じての仕事」や「生涯を通じての人間の生き方・表現」であると考え、これを踏まえた形で調査票を作成、2001年7月に全学で調査を実施しました。その後、3つのメインテーマ（情報、自己投資・自助努力、大学への評価）を設定し、「関心のある情報と希望職種」「情報収集の頻度と価値観」「情報と進路、それに関わる意識」「就職に対する考え方と、日常の取り組み」「女性の社会進出と結婚後の就業形態」といったキャリア形成に関する分析と、「大学への満足度」の分析を行っています。今回は、分析結果の一部を紹介したいと思います。

## 学年とともに高くなる就職に対する意識（図1）

「就職についてどの程度考えているか」という質問の学年別集計結果を示したものが図1である（四大の2年生と就職活動を目前に控えた短大の2年生では状況が違うため四大と短大を区別して集計）。学年が上がるにつれて、「真剣に考えている」と答える人の割合が高くなる一方で、「まだ先の問題」は、学年が上がるにつれ激減している。

また、短大の1年生は四大の3年生と同じような分布になっており、就職への心構えという点では、短大の1年生は四大の3年生に相当することがわかる。

## 「結婚後も仕事を継続したい」女子が46%（図2）

「仕事を継続したい」という女子が「妻に仕事を継続してほしい」という男子を大きく上回ったことから、女性の就業に対する意識には男女間でギャップがあることがわかる。また、男子は「その時考える」という回答が多い。女子が自分自身の問題としてとらえている一方で、男子は「妻の意見を尊重したい」「妻の就業形態は他人事」というとらえ方なのではないか。

## 高い値を示した大学側の就職支援への要望（図3）

「業界の情報を知りたい」「各学部独自の就職支援をして欲しい」という回答が、それぞれ50%台と多く、「特になし」という学生は全体の7%であった。多くの学生が就職については手探りながらも前向きで、大学側にも何らかの就職支援を求めていることがわかる。

総合政策学部の特徴としては、「公務員試験に関する情報を知りたい」という要望が多く、全体を9%上回っている。また、調査票作成時には、看護学部、社会福祉学部、短期大学部（食物栄養学専攻）等を念頭に置いていた「専門職の国家試験に関する情報を知りたい」でも、全体より低い値ではあるが、総合政策学部の18%の学生が選択している。

これらの項目は現時点では改善等が行われているものもある。大学側への一方的な要求にとどめるのではなく、積極的な学生側のアプローチによりさらなる環境改善を期待したい。

今回の調査では、学生の就職に対する意識・取り組みの実態を明らかにすることができ、以上の結果以外にも多くの興味深い結果が得られました。例えば、次のようなものです。

- 就職について真剣に考えている人ほど、就職に向けた自己投資・自助努力に意欲的に取り組んでいる
- 就職先の選択に労働条件や環境を重視するか否かよりも、仕事に対する興味や関心を重視するか否かが、積極的な情報収集行動につながっている
- 女性は「現実主義的志向」であり、男性は「理想主義的志向」であるといったように、属性（性別・学部・学年）によって価値観の違いが見られる
- 女性の社会進出については男女共に肯定的な人が多いが、男性が求める妻の就業形態と、女性自身が希望する就業形態は異なる

これらの分析結果は、報告書とwebにて公開の予定です。

なお、今回の調査では、岩手県立大学全学部の1年生から3年生と、盛岡短期大学部全学科の1、2年生合わせて1208人の回答が得られました。調査実施にあたっては、四大各学部の就職委員会、短大就職委員会、全学就職対策実施委員会、事務局学生課、各学部の先生方にお世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

（文責：平 学、須藤 恵美）

図1 就職に対する意識と学年の関係

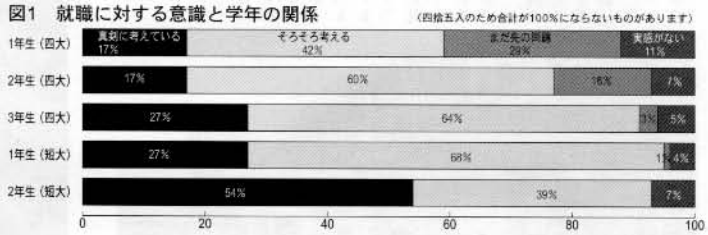
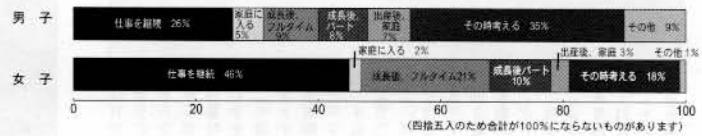
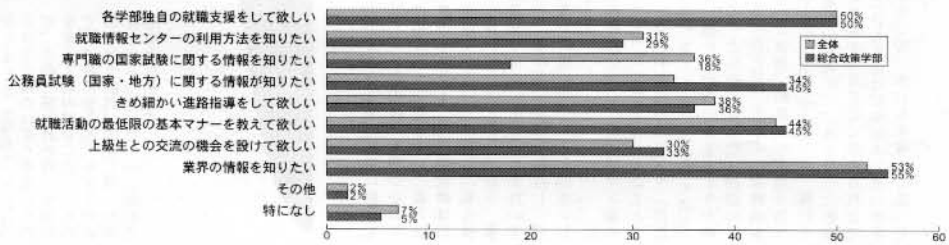



図2 結婚後の就業形態（男性は妻への期待、女性は本人の希望）




（四捨五入のため合計が100%にならないものがあります）

図3 大学の就職支援への要望（複数回答）




## 地域通貨実験で新たな自分探しをしてみよう!!

地域通貨研究会では、4月中旬から県立大学内での地域通貨実験を行います。

現在、全国で広まりつつある地域通貨ですが、岩手県内で導入しているところはありません。そこで、県内初となる地域通貨実験を県立大学内で行います。これに参加してくれる学生を現在募集中！まずは、地域通貨研究会のHPを見てください。「地域通貨って何？」「それって面白いの？」全ての疑問にお答えすることができると思います。

みんなで学生生活を楽しんでみよう!!

県立大学地域通貨研究会　大和久ひかり
地域通貨研究会ホームページ
http://www.policy21.jp/PRN/project/eco/index.html

## 「地方分権と議会の活性化」シンポジウム

平成14年1月29日(火)、盛岡市中ノ橋通の「プラザおでって・おでってホール」で、本学部学術振興委員会（委員長・平野千博教授）主催の「地方分権と議会の活性化」シンポジウムが開催された。全国町村議会議長会の岡本光男氏の基調講演「地方分権と議会の活性化」の後、大船渡市議会議長今野雄吾氏、胆沢町議会議長菅原信雄氏、本学部助教授齋藤俊明をパネラーに、本学部助教授田島平伸をコーディネーターに「市町村議会の課題と活性化」についてパネルディスカッションが行われた。250名をこえる参加者があり、テーマへの関心の高さを感じさせるシンポジウムとなった。

おじゃします
「増子義孝教授の研究室」の巻

## 現代社会を理解するには“好奇心”と“現場感覚”が大事

「取材に来るというので昨日は大掃除をしましたよ」と笑う増子先生。なるほど、壁際に並ぶ蔵書や資料は整然と片づけられており、昨日までの研究室を知る者にとってはまるで違う場所に来たような錯覚に陥る（らしい）。蔵書のタイトルに目をやると、圧倒的に多いアジア関係書、メディア論などの書籍に混じり、NPOなど市民活動について記された本も並ぶ。そして、本棚の片隅にはジャカルタの市場で手に入れたというアンティークのパイプがポツンと置かれている。大学教員はほんの駆け出しという先生の頭の中を少しだけのぞき見るような感覚。そこに並ぶものは、未知なる事象に対する好奇心であり探究心でもあるように思う。

三十六年間におよぶ朝日新聞社での記者生活のうち十年も特派員としてジャカルタ、ニューデリー、バンコクなどアジア各地を飛び回っていた。親ソ政権時代のアフガニスタンでは、自分が降り立った空港が数時間後にロケット弾で攻撃されたこともあった。まさに命懸けの取材活動だが、先生は「新聞記者とはそういうもの」とこともなげに言う。なにより歴史の現場に立ちあえた興奮、そしてアジア各国の多様性を肌で感じ取った経験は、先生の発想と思索の源となっているようだ。専門は国際関係論、国際協力論、マスメディア論だが、昨年の講義ではアメリカのテロ事件を取り上げた。自ら「二〇〇一年九月十一日を境に世界は変わった、という人もいる衝撃的な事件。避けて通るわけにはいかないよね」と語る。

そんな先生の県立大生の印象は「よくも悪くも真面目」。授業をサボる学生が少ないからだ。しかし机上の講義だけでは国際社会を正しく理解できない。本当にやりたいことを見つけるためにも世界へ飛び出す気概を持て、と先生は学生へ発破をかける。

「どんな世界、どんな時代にわれわれは生きているのか。いま起きていることに一番関心がある」と先生。新聞記者時代から貫いてきた“現場主義”は、まったく変わっていない。

●【MONTO】岩手県立大学総合政策学部ニュース　Iwate Prefectural University
●第7号　2002年(平成14年)4月5日　●発行：岩手県立大学総合政策学部
〒020-0193岩手県滝沢村滝沢字巣子152-52
代表TEL019-694-2000　学部019-694-2700　FAX019-694-2701(学部事務室)
印刷／株式会社杜陵印刷　TEL019-641-8000

《MONTO WEB版》URL
http://www-poly.iwate-pu.ac.jp/monto/
＊岩手県立大学のホームページ　http://www.iwate-pu.ac.jp/から
総合政策学部をクリックして，次にMONTOをクリックしてもアクセスできます。

MONTO
岩手県立大学
総合政策学部ニュース
Iwate Prefectural University
第7号2002.4.5
このニュースは100%再生紙を使用しています。

キャンパスの鳥たち・3

# アカゲラ

由井正敏

アカゲラはキツツキの仲間で、漢字では赤啄木鳥と書きます。この真ん中の二字は郷土の大詩人石川啄木の名前と同じです。というよりは帰郷した傷心の石川一（はじめ）が実家の裏山で力強く木をつつくアカゲラに勇気づけられて啄木というペンネームにしたのでした。

滝沢周辺では今もこのアカゲラが沢山繁殖し、県立大学の並木でもしばしばケッ・ケッという鳴き声や波状に飛ぶ姿が見聞きされます。この付近にアカゲラが多いのは、アカゲラの好物であるマツボックリが実るアカマツ林が広く分布するのと、巣穴を掘るのに適した芯腐れのできやすいカスミザクラが多いためと思われます。このアカマツは南部アカマツという銘木になり、県の木に指定されています。

世界的にはユーラシア大陸中緯度から中国南部まで広く分布し、おおむね留鳥として一年中同じ場所に生息していますが、冬になると一部の個体は里山にも移動して来ます。日本では北海道、本州に生息し、四国、九州にはいません。体長は二十四センチメートルで、背中は黒を基調に白い斑があり、胸は白色、腹の部分と雄の後頭部は赤色のきれいな野鳥です。

アカゲラは毎年新しい巣穴を掘って初夏に一回繁殖します。一度使った巣穴は、その後ねぐら用に自分で使うこともありますが、大半はシジュウカラやキビタキ、コウモリ類など他の動物が繁殖やねぐらに再利用します。アカゲラなどのキツツキ類は、このように樹洞を新たに掘ることにより他の動物の生活に寄与することから、生態系の要になるキーストーン種と呼ばれています。

アカゲラは森を守るためのさらに大きな役割を果たしています。それは、木を枯らす害虫類を退治することです。特に、木の幹や枝の中にもぐっているカミキリやゾウムシの幼虫を捕らえるのが得意です。トントンと軽く打診した後は、百発百中のテクニックで木に潜り込んでいる幼虫をつつき出します。奥深い穴に潜んでいる幼虫には、くちばしの三倍にも伸びる長い舌を繰り出し、舌先にあるカギ状突起で引っぱり出します。どこかの政治家とは段違いで、舌先三寸で真面目に仕事をしています。

底無型巣箱に泊まりに来たアカゲラ(中村充博氏撮影)

県内ではマツクイムシ（正しくはマツ材線虫病）によるアカマツの枯れが拡大していますが、この病気の媒介者であるマツノマダラカミキリの幼虫は、アカゲラによって沢山捕食されていることが私たちの調査で分かりました。アカゲラはマツクイムシの天敵として、微害段階での被害の拡大を遅らせる役割があると考えられます。このため、アカゲラを誘致増殖する方法の研究に取り組み、架設した丸太巣での繁殖を確認し、またねぐら用には底のない巣箱を開発しました（写真）。これは、キツツキ類のねぐら専用のもので、天敵に襲われた時の脱出口を巣穴と底の部分に設けたものです。夜になるとアカゲラがこの巣箱を訪れ、内壁に刻んだ溝にしがみついて寝ている例が各地で確認されました。

モント事件簿(その7)

# なぎさ痕跡 捏造事件？の謎

忙中閑（かん）あり、夜勤明けの非番のひととき、本官銭形モント警部は、社会福祉学部棟北側の芝生で春の陽ざしを浴びておりました。かなたに姫神山とそれに続く高原が見え、まわりの草がそよ風に波のように揺れます。まるで、浜辺で日光浴でもしている気分になり、ついウトウトとして、いつのまにかウチノカミサンと三陸の船越の海辺で夏休みを楽しんでいる夢を見ておりました。その夢の中に、突然見覚えのある男が登場して砂をかき集めて持ち去ろうとしたのです。

いつの間にか場面が変わって大学構内でその男が砂を撒きながら話しています。「ここが波が打ち寄せるところ…」、「ここを渚（なぎさ）にして」、「そこに小石や砂を敷いたようにして…」、さらに「フナコシ…」と懐かしい地名が聞こえ、ついには「こっちにもネッゾウ…」といったところで、本官は目が覚めたのであります。現実に眼前で学生たちと話していたのは、本官がかねてからクサイと睨んでカン視していた総合政策学部のY教授でありました。同教授は旧石器時代の遺跡をいくつか発見し「私も神の手を持つと言われた」と称しており、第二の遺跡捏造犯ではないかという本官のカンが当たり、海岸線の痕跡を捏造し、貝塚遺跡を捏造中の現行犯であると直カンしたのであります。

本官の職務質問に対し、彼は狸カン論の実習中であると言い「濤（とう、波のこと）と「渚」という若い男女のリッゾウ（捏造ではなく立像であるとか）について語り、芝生が海を、細かな凹凸のあるタイルが砂浜を象徴する、と説明しました。捏造のため撒いた？筈の砂が見つからず、「本件のカンジンの作った証拠、船越の砂が無くなって残念だが…」と小声で呟くと、彼曰く「本当に…本県の県人の、これを造った彫刻家舟越保武さんが二月に亡くなられ残念ですねえ」。どうも本件は何やらカン違いが多くトンチンカンで、本官もイカンに思っておる次第です。

第七回

# お宝拝見！ 村落生活の証拠物件

佐藤　利明

テレビ番組では旧家から驚くような「お宝」が出てきたりする。が、我が生家は旧家でも名家でも、まして資産家でもないので、めぼしい物は何もない。家の累代も父で六代目であるから比較的新しい。ただ、「むら」の同族団（＝本家分家関係の地域集団）の中で庄屋から最初に分家した家であったせいか、本家の補佐役を担ってきたらしい。ここに紹介するのは、先祖が生活を営んできた証拠の品々といえようか。祖父の代に破産した際に古い物はあらかた焼却処分されたが、かろうじて古箪笥の奥に残っていた物である。

明治政府発行の「地券」

屋根葺きの巻き物と互助組合規定，調理法のしおり

かつて農家の屋根は茅葺き集団であった。写真の巻き物には「屋根葺巻」とあり、茅葺き屋根の技法や神事などを伝えたもので、村落生活を示す地方（じかた）文書といえよう。我が家の二代目今朝五郎（天保十一年生まれ）が、我が家の次に分家した隣家の初代・文四郎（明治三十四年没）から譲り受けている。我が家の初代・忠五郎（文政六年生まれ）の弟が男であるらしい。

写真上段の「地券」は教科書で見た人も多いと思う。忠五郎名義であるが、裏には今朝五郎の名がある。宅地や耕地のほかに山林、柴山、草地、秣場（まぐさば）といった農家の生産生活に欠かせない地目別に筆ごとに課税されていた。

「馬鈴薯調理之栞」（下段写真の右下）は、三代目・徴治（安政五年生まれ）が福島県二本松の林業者樂の料理ガイドを筆写したもの。遠い福島からどのように情報を得たものやら不思議である。「大正十人講救済組合規定」（同、左下）。徳十郎（明治十五年生まれ）は四代目。「むら」の二大同族団の重立（＝有力家）層の十人が結成した、地域における相互扶助組織である。

いささか古い話になったが、これらの品々を通して、明治期の日本において、地方では近代国家制度に組み込まれつつも、「むら」の生活組織を通して日々の生活を実現していたことがかいつくる。我が家というより私の「お宝」である。

インプラント――――平塚　明

博物館にはジレンマがある。展示物に添えられた説明文が少なすぎれば入館者の知的好奇心はゆたかに満たされない。多すぎるとうるさくなり興味のない人を遠ざける。博物館の展示案をつくっていた頃、このジレンマに悩まされた。

そこで、解説文を入れたICチップを展示物に組み込み、それを携帯端末か携帯電話に読ませるという計画を描いた。たとえば音声ガイドを貸し出す美術館があるが、その「文字・画像表示」版である。当時は単なる構想だったものが、時がたって技術的には可能になった。

現在、複数のメーカーや自治体と協力し、産学官共同事業の一つとして実用化を進めている。試作段階なので写真はあくまでも想定図である。たとえば樹木に埋め込んだICチップの情報を、携帯端末から非接触で読みとったり書き込んだりできる。木の名前や生物学的解説、植樹としての履歴など、半なるID以上の情報を引き出せる。モニター機能を加えれば、さらに次の段階に進むだろう。

チップを埋め込まれると「もの」自身が語り出す。興味のない人は読まなくてよいし、深く知りたい人は記述の階層をさらに降りてゆけばよい。更新も簡単である。チップの小型化は著しく、たいていのものに装着できる。さらにGIS（地理情報システム）と組み合わせ「押しつけがましくない」情報提供として、教育・文化面だけでなく、流通・商業・農林・医療面での応用も計画には含まれている。

●編集後記

▼一期生が実社会に旅立っていきました。MONTO第七号をお届けします。第七号のテーマは「卒業」です▼学生にとって、卒業とともに重要な問題は、就職。厳しい就職情勢のなかで、総合政策学部の一期生、かなり健闘したのですが、まだまだ課題があるようです。二・三面では「就職試験対策懇談会」の様子をお伝えし、総合政策学部の「就職」に関する分析結果の一部を知ることができます▼今年度から、大学生の就職意識調査の結果を紹介しています。七面では、総合政策学部の学生による県内の名所や生物学的解説、植樹としての履歴など、半なるID以上の情報を引き出せる。モニター機能を加えれば、さらに次の段階に進むだろう。

チップを埋め込まれると「もの」自身が語り出す。興味のない人は読まなくてよいし、深く知りたい人は記述の階層をさらに降りてゆけばよい。更新も簡単である。チップの小型化は著しく、たいていのものに装着できる。さらにGIS（地理情報システム）と組み合わせ「押しつけがましくない」情報提供として、教育・文化面だけでなく、流通・商業・農林・医療面での応用も計画には含まれている。

のお話とともに、留学先のカナダでの産学交流やインターンシップの現状を紹介しています。七面では、総合政策学部の学生による県内の名所や生物学的解説、植樹としての履歴など、半なるID以上の情報を引き出せる。モニター機能を加えれば、さらに次の段階に進むだろう。

●編集責任者：徳久剛一　豊島正幸、齋藤俊明、阿部晃士、佐野嘉彦、堀端義裕

けでなく、学部全体のホームページをより一層充実させていく予定です。ご期待ください。

●編集スタッフ：脇田健一（編集責任者）、徳久剛一、豊島正幸、齋藤俊明、阿部晃士、佐野嘉彦、堀端義裕

とができます▼今年度から、大学生の就職意識調査の結果を紹介しています。六面の「研究最前線」では、今井先生の金融工学